

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.167 2010.3.1

城山の野鳥たち



ジョウビタキ



シジュウカラ



ルリビタキ



メジロ



ミヤマホオジロ

城山丘陵にあるアルプス公園では、様々な野鳥が見られます。この冬、山と自然博物館では、1階ホールに隣接するテラスに餌台を作りました。ホールはミラーガラスになっているため、鳥たちを間近で観察することができます。この冬にはシジュウカラやヤマガラをはじめ、ヒヨドリ、ジョウビタキ、メジロなどが餌を求めて訪れました。

もくじ

誌上博物館◇

国選択無形民俗文化財「松本のコトユウカ」調査から …… 2-3

野鳥紹介・ガイドコーナーはてんぼく …… 4

国選択無形民俗文化財「松本のコトユウカ」調査から

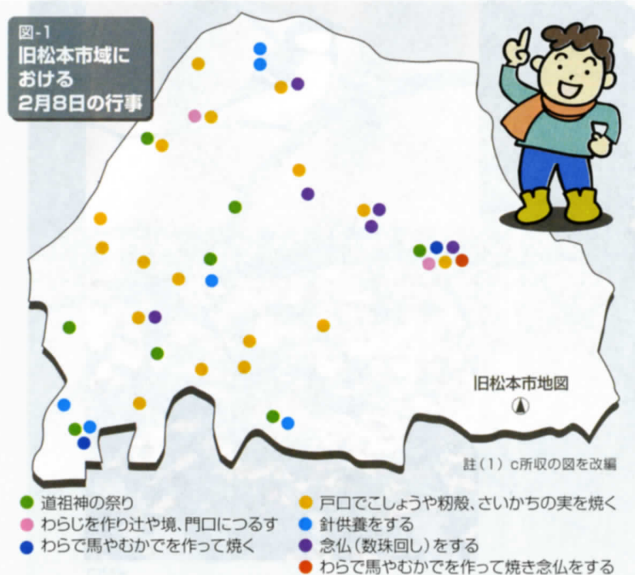
はじめに— 百聞は一見に如かず

松本市立博物館では、市民学芸員養成講座の一環として1月31日に市民講座「松本のコトユウカを学ぼう」を開催しました。受講者をはじめ講座修了者、一般市民も参加し、博物館と文化財課の職員が講義を行い、メインイベントは映像記録の鑑賞。この映像は昨年、文化庁が松本のコトユウカ行事を記録しDVDにしたものです。参加者からは、「こんな行事があっただね」「全部見ると何年もかかるね」「ぜひ見たいです」等々、行事内容と同じく多彩な感想が寄せられました。

「百聞は一見に如かず。先ず行事を見ましょう。」ということで、2月8日を中心に両館課の職員とレポートを提出する受講者が見学調査をしました。

松本のコトユウカ行事

旧市域では2月8日をオヨウカ・コトユウカなどと呼び、平成9年現在で図-1のように多彩な行事が伝承されています。



この日に来訪する神は厄病神(貧乏神、風邪の神)といわれ、行事は総じて厄病神の来訪を防いだり、ムラから厄病神を追い出してムラの安穏を祈る行事です(1)。これらのなかには、道祖神とかかわったり、念仏を唱える、針供養など様ざまなものがあります。なかでもワラの作り物を伴う行事は特色のあるもので、平成8年に里山辺追倉、入山辺上手町・舟付・中村・厩所・奈良尾、今井下新田、両島の8地区の行事が市重要無形民俗文化財に指定されました。12年には国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されています。

来訪する厄病神 vs ムラ人の味方道祖神

かつて、この日に薄川流域から田川流域にかけて

餅をついて道祖神に供えて祭りをする地区が多くあり、次のような伝承があります。「毎年10月は神無月で神様は出雲に出かけ、厄病神は遅れて12月8日に出かける。この時、厄病神は呪いの帳面を道祖神に渡し『来年の2月8日にもどるからそれまで大切に保管してくれ。決してなかを見ないように』と念を押す。その後、道祖神がこの帳面を見ると、太郎の家は厄病、次郎の家は泥棒などを書いてある。ムラ人の幸福を祈る道祖神はそんな帳面を厄病神に返せないで、三九郎の火で焼いてしまう。2月8日になると厄病神は出雲からもどるが、ムラ人たちは戸口で胡椒やサイカチの実などを焚いてくさい匂いを出している。厄病神はくさい煙のなか道祖神に帳面を返せと迫るが、道祖神は『火事(三九郎)にあって帳面は焼いてしまった』と言い訳し、新しい帳面を渡す。厄病神がこれを開くと厄を逃れる方法が書いてあり、『こんなものはいらない』と言ってみたが仕方がない。道祖神の前にはムラ人が火事見舞いに供えた餅がワラツトに入ってたたくさんあり、『厄病神くん、怒らずにこの餅を食べないか』と道祖神は言うが、厄病神は小言を言いながらどこかへ行ってしまふ」と(2)。

8日早朝に戸口で胡椒や粉殻、サイカチの実などを焚くヌカエブシは厄病神の来訪を防ぐ行為とわかります。この日の餅はコトノモチ・ヨウカモチなどといわれ、厩所・上手町・舟付などでは道祖神に餅を塗ります。餅塗りは、厄病神からムラを救ってくれた道祖神へのお礼です。ベタベタと塗るのは道祖神が厄病神から身を隠すため、道祖神は口が軽いので厄病神に本当のことを話させないための口封じ、などのいわれもあります。

舟付では調査時に餅塗りがあり、写真-1のように撮影ができました。厩所では餅塗りは年々少なくなっている、かつては餅を塗ると女性が良縁に恵まれるといわれた、などの話を聞きました。



写真-1 道祖神への餅塗り(舟付 2月7日)

ワラの作り物、その後

薄川流域の追倉、厩所、奈良尾、上手町、中村、舟付ではワラでウマ・ムカデ・リュウなどを作り、



写真-2 昨年のアシナカ(左)と
今年のアシナカ(両島 2月11日)

これを厄病神に見立ててムラの外に追い出します。平坦地の両島、下新田ではワラでアシナカ・ワラジを作り、ムラ境に掛けて厄病神の来訪を防ぎます。これは「このムラにはこんな大きなアシナカ(ワラジ)を履く巨人がいるならかなわない」と厄病神が帰ってしまふのだといわれています。厩所、奈良尾、上手町、舟付では焼き払いますが、かつては薄川に蹴落したり、流していました。一見すると、厄病神を焼き払うこと＝ムラの安穩、となりますが、時代によって変わっていることは注目すべきです。一方、平坦地ではアシナカやワラジを1年間掛けっ放しで、年間を通してムラの安穩を祈るムラ人の心意が表れています。両島では写真-2のように昨年掛けた半ば朽ちたアシナカをおろし、作ったばかりの新しいアシナカを掛けました。

変る祭日

今年のコトヨウカは、7日に3地区、8日に4地区、11日に1地区という日程で行われました。本来ならば文字通り8日に行うことがベストでしょうが、この行事に限らず祭日は移動している行事が多くあります。

両島は古くからK・I・Tの3姓の家で伝承され、平成6年には行事の保存会が結成されました。今年の祭日にかかわり保存会で検討したところ、8日に「やらない」のではなく「できない」という結論に達したといえます。3姓の戸数が限られ、力のある男衆でなければアシナカを作れないため、平日だと数人しか集まらないなどの理由で11日の休日に祭日を変えました。これは、どうしても行事を伝承してゆきたいという保存会の苦汁の決断であったようです。

「見て、聞いて」学ぶ姿勢

「歩く、見る、聞く」ことは、民俗調査にとって大切なことです。もっとも、今回は「歩く」調査は難しかったですが…。受講者の必須調査地は上手町、中村の2地区でしたが、自主調査として

各地区の調査をしました。

両島の調査は6人が参加し、写真-3のようにそれぞれ熱く聞き取りを行い、写真撮影をしました。地元の方々も手を動かしながらもそれに応えてくれました。私たち職員は受講者の熱心さに気圧され、気後れして見学が主になってしまいました。先に示した「歩く、見る、聞く」に「そして考える」を付け加えれば、よいレポートができそうです。私自身はコトヨウカにかかわって20年近くになりますが、受講者の調査にのぞみ学ぶ姿勢にふれ汗顔の至り。初心に帰らなくては、と強く感じました。



写真-3 受講者の聞き取り調査(両島 2月11日)

おわりに—暮らしに根ざした文化財にもっと注目を

世間一般では、「たから」＝高価なもの、美しいもの、という考え方が大勢をしめます。文化財も似たところがあり、美術品や建造物など派手？なものが世間の耳目を集めます。しかし、これらは現実の暮らしから引き離されてしまっているものが多いことも事実です。

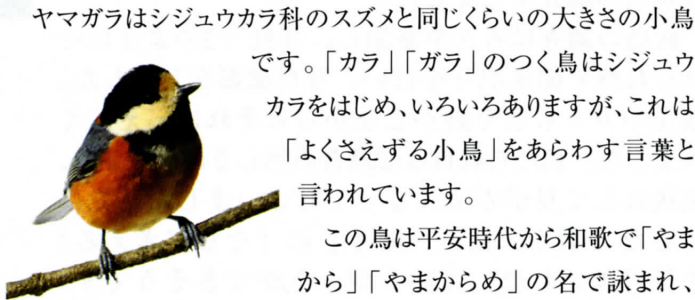
私たち博物館や文化財課では、暮らしに根ざした、暮らしに息づいた民俗文化財をもっと大切にしてゆきたいと考えています。調査した受講者は全員が異口同音に「DVDもよかったけれど、やはり行事を目の当たりにすると大変感激する。8地区全部調査したいです」と、学習意欲満々。そういう意味では、松本のコトヨウカに代表される無形民俗文化財は、学都を標榜するまちに暮らす市民にとって「歩く、見る、聞く、そして考える」に値するものの一つになるのではないのでしょうか。今年、市民学芸員養成講座受講者と一緒に調査を行い、こんなことを思いました。

最後に、聞き取り調査に協力をいただいた各地区の方々には心からお礼を申し上げます。

(館長補佐／窪田 雅之)

- (1) 詳しくは、a 窪田(1992)「コト八日行事点描」(『塩尻市立平出遺跡考古博物館紀要』9)、b 窪田 金井ひろみ(1997)「松本市域のコトヨウカ」(『信濃』49-1)、c 松本市(1997)『松本市史第3巻民俗編』、d 松本市教育委員会(1998)『新編松本のたから』などを参照されたい。
- (2) 編集委員会(1985)『片丘村誌』、倉石忠彦(1990)『道祖神信仰論』など

今号の表紙はアルプス公園で見られる野鳥を紹介していますので、ここでは山と自然博物館でよく見かける野鳥の一つであるヤマガラを紹介します。



ヤマガラはシジュウカラ科のスズメと同じくらいの大きさの小鳥です。「カラ」「ガラ」のつく鳥はシジュウカラをはじめ、いろいろありますが、これは「よくさえずる小鳥」をあらわす言葉とされています。

この鳥は平安時代から和歌で「やまから」「やまからめ」の名で詠まれ、

江戸時代には趣味や娯楽で飼育されたりしました。また、明治から昭和のはじめ頃にかけては、ヤマガラが縁日でお御籤(みくじ)をひく芸をする見世物があり、高齢の方の中にはその見世物を今も記憶している人がいます。

山と自然博物館の建設工事をしている時、多くの建設機械や工事関係者が毎日出入りして野生の生き物は近づいてくる事はありませんでした。工事が終わってから数日後、はじめに建物に近づいてガラスをコツコツとつついて来たのがこの鳥、ガラスに映った自分の姿に反応しての行動でした。ヤマガラはそんな好奇心旺盛な鳥です。(松本市山と自然博物館 学芸員/小原 稔)

ガイドコーナー はてんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

企画展「博物館でひな祭り」

「松本押絵雛」ほか松本地方のひな祭りを紹介します。

会 期 2月20日(土)～4月18日(日)
会 場 市立博物館 2階展示室

学都松本シリーズ1 企画展「教科書の中の道具たち」

小学校の教科書には様々な道具が登場しますが、この「昔の道具」を博物館資料の中から紹介します。

会 期 2月27日(土)～3月14日(日)
会 場 市立博物館 地下展示室

年中行事シリーズ1 甘酒サービス

月遅れのひな祭りにちなみ来館者に甘酒をサービスします。(なくなり次第終了)

日 時 4月3日(土) 午前10時から
会 場 市立博物館 1階エントランス

※企画展は常設観覧料が必要です

歴史の里から ☎0263-47-4515

裂き織り体験

日 時 3月11日(木) 午前10時～午後3時(1時間ずつ4組)
定 員 各組5名
参加料 1,000円(大サイズ)、500円(小サイズ)
持ち物 はさみ、裂き織りにしてみたい布(お持ちでしたら)
申 込 3日前までに歴史の里へ

第4回建築ワークショップ

「昔の道具を使った製材」

—前挽き鋸などによる製材作業の実演と体験—

日 時 3月20日(土) 午前9時～正午
定 員 40名
参加料 200円
服 装 汚れても良い身支度、作業用の手袋(雨天の場合は雨具)
申 込 事前に歴史の里へ

時計博物館から ☎0263-36-0969

春休みネジ巻き見学会

普段は見ることができない、開館前に時計技師が行っている古時計のネジ巻きや時刻合わせの様子を、解説をまじえながら公開します。

日 時 3月20日(土)～3月22日(月) 各日午前9時～9時40分
会 場 時計博物館常設展示室
参加料 常設展観覧料が必要
(大人300円、小・中学生150円)
問合せ 時計博物館へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展 「生活を着る 刺子展」

物を大切にする執念、根気と誠実さによって産み出された日本の美・刺子。「小ぎん刺し」「菱刺し」各種仕事着のおしゃれで力強い魅力に圧倒されます。

会 期 4月20日(火)～6月6日(日)
観覧料 通常観覧料
(大人300円、中学生以下 無料)

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

松本の子どもの短歌・2009作品展

会 期 3月20日(土)～4月18日(日)
会 場 窪田空穂記念館会議室
観覧料 作品展のみは無料

春休み窪田空穂記念館囲碁教室

日 時 3月30日(火)～4月1日(木) 午前10時～正午
会 場 窪田空穂記念館(生家)
対 象 小中学生
参加料 無料
指 導 囲碁普及ボランティアグループ
申 込 当日までに窪田空穂記念館へ

あとがき

昨年の表紙は春の花を掲載したので、今回はアルプス公園で冬に見られる野鳥達を掲載してみました。これらの写真はアルプス公園内で撮影したものです。公園には季節に応じて様々な野鳥がいます。アルプス公園へお越しの際はぜひ、小鳥の鳴き声にも注意をはらってみてください。(M.O)

あなたと博物館 No.167

発行年月日/平成22年3月1日 編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: <http://www.matsu-haku.com>
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社